

7 ガス設備機器

【関連章第3章7】

事例3 「ガステーブル使用中、伝導過熱により出火した火災」

出火時分 12月 9時ごろ

用途等 住宅 防火造2/0 延100㎡

被害状況 建物部分焼1棟 16㎡、内壁2㎡、小屋裏60㎡焼損

概要

この火災は、住宅の1階台所から出火したものです。

出火原因は、ガステーブル左側内壁に取り付けられたステンレス板がこんろ部分の炎に継続的に熱せられたことで、高温になったステンレス板の熱が壁体内の木材に伝導し、やがて木材の発火温度に達したため出火したものです。

居住者の女性は、ガステーブルのこんろ部分に片手鍋を置き、こんにゃくを30分ほど温めていたところ、左側の壁付近から白い煙が出ているのを発見しました。

発見後、庭の散水栓からホースを延ばし、煙の出ている壁に水をかけましたが、煙は収まらなかったため、自宅の電話から119番通報をしました。

教訓等

この火災は、ガステーブル付近のステンレス板が熱せられ、壁体内の木材に伝導過熱したため、木材が発火し出火しています。伝導過熱とは、ガステーブル等の炎が不燃材の壁体等に接し、その熱により内部の可燃材に着火することをいいます。

台所や厨房でステンレス板等の金属の不燃材が取り付けられているところでは、外観上安全に見えますが、こんろ部分の炎や高温になる熱源との距離が近いまま継続的に使用を続けると、ステンレス板からの熱が壁体内の木材に伝わり、木材自体が発火温度に達し、出火してしまいます。

壁の構造が壁体内の木材に熱が伝わらない構造になっているか、熱源との距離は近くないか、ステンレス板等に局所的な変色はないか等を日常的に点検し、異常がある場合はすぐに使用をやめましょう。



写真 7-5 使用していたガステーブル

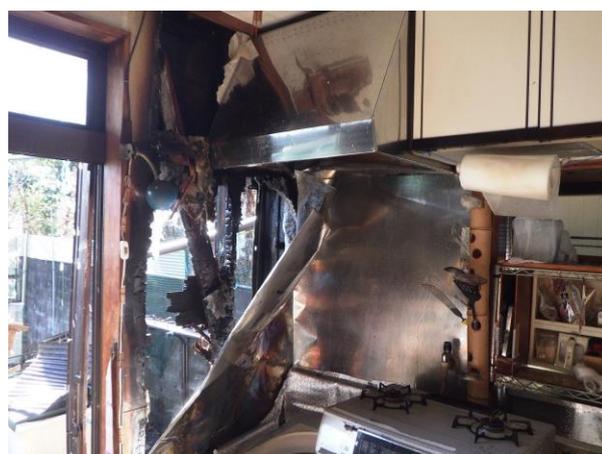


写真 7-6 壁体内の焼損状況